

Kumamoto Artpolis 2000 Event Calendar

シンポジウム 見学会 展示会 パネル・ビデオ展 協賛事業

10 October
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

●アートポリスプロジェクトのパネル・ビデオ展
場所/天草空港 期間/10月28日(土)~11月5日(日)

●アートポリスプロジェクト、アートポリス推進賞受賞施設等見学会
期間/10月15日(日)~11月14日(火)

●展示会「くまもとアートポリス展」

●私たちのまちづくり展

●Towards Totalscape (現代日本建築・都市計画・ランドスケープ展)
場所/国立オランダ建築博物館(オランダ・ロッテルダム) 期間/平成12年10月20日(金)~平成13年1月14日(日)

11 November
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

●講演会「ぼくの建築体験」赤瀬川原平
場所/熊本県立劇場「演劇ホール」 日時/11月11日(土)13:30~16:30

●シンポジウム ●私たちのまちづくりシンポジウム
場所/熊本テルサ「テルサホール」 日時/11月12日(日)13:30~16:30

●国際建築フォーラム「21世紀を開く構造システム」
場所/熊本テルサ「テルサホール」 日時/11月13日(月)13:30~16:30

●展示会「21世紀へのアートポリス ストリート展」
場所/熊本市下通アーケード街等 期間/11月11日(土)~11月13日(月)

●アートポリスプロジェクトのパネル・ビデオ展
場所/天草空港 期間/10月28日(土)~11月5日(日)

●アートポリスプロジェクト、アートポリス推進賞受賞施設等見学会
期間/10月15日(日)~11月14日(火)

●展示会「くまもとアートポリス展」 場所/県立美術館分館ギャラリー
期間/10月31日(火)~11月12日(日)

●アートポリス展 場所/うしぶか海彩館(牛深市) 期間/11月1日(水)~5日(日)

●アートポリスシンポジウム 場所/牛深市総合センター(牛深市) 日時/11月5日(日)13:30~

●小さなモノから大きなコトまでKD21し・ご・と展 場所/上通り郵便局「プラザU」(熊本市) 期間/11月8日(水)~13日(月)

●21世紀への遺産「熊本の近代建築」 場所/同仁堂スタジオライブ(熊本市) 日時/11月10日(金)18:00~21:00

●アートポリス観て、聞いて、触って、感じる...ウオッチング&トーク 場所/熊本市中心部 日時/11月12日(日)13:00~

●住宅のうつりかわりと住宅作品展 場所/県立美術館分館ギャラリー 期間/11月14日(火)~19日(日)

●熊本における現代建築展 場所/県立美術館分館ギャラリー 期間/11月21日(火)~26日(日)

●JIA熊本建築家の会作品展 場所/県立美術館分館ギャラリー 期間/11月28日(火)~12月3日(日)

●私たちのまちづくり展 場所/湯前町、小国町、砥用町、南小国町、苓北町、蘇陽町 時期/10月下旬~11月上旬

●Towards Totalscape (現代日本建築・都市計画・ランドスケープ展)
場所/国立オランダ建築博物館(オランダ・ロッテルダム) 期間/平成12年10月20日(金)~平成13年1月14日(日)

12 December
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

●JIA熊本建築家の会作品展 場所/県立美術館分館ギャラリー 期間/11月28日(火)~12月3日(日)

●Towards Totalscape (現代日本建築・都市計画・ランドスケープ展)
場所/国立オランダ建築博物館(オランダ・ロッテルダム) 期間/平成12年10月20日(金)~平成13年1月14日(日)

kumamoto artpolis news 24

くまもとアートポリスニュース第24号 2000年9月発行



特集 ●
くまもとアートポリス 2000 アートポリス2000の全貌

- オランダで開催の建築展に出展
- 次々と来熊する海外視察団
- 私たちのまちづくり事業公開討論会
- 新規プロジェクト紹介
- アートポリスドライブルート
- プロジェクト一覧
- イ

kumamoto artpolis

Kumamoto Artpolis 2000

事業の成果を世界へ発信するくもとアートポリス2000

地球とネットワーク 地域と対話



くもとアートポリス2000展示会「21世紀へのアートポリスストリート展」イメージ図

くもとアートポリス事業は、より質の高い生活空間の創造を目的に、1988年から取り組まれてきた。豊かな自然や歴史、風土のなかで培われた多彩な地域文化や伝統を生かし、文化的遺産として後世に残り得る優れた建造物を県内各地に誕生させてきた。また、機能面、デザイン面などに優れた建築文化などを広めることで、地域の活性化を促す役割も担っている。

'92年、'96年に引き続き、2000年の今年、「くもとアートポリス2000」が開催される。テーマは「地域と対話、地球とネットワーク」。これには、人々の参加と対話を通じて、地域の文化と環境を継承し、地球的な視野から地域を見つめ直すことで、21世紀の熊本のまちを創造しようという意図が込められている。

11月を中心に、シンポジウム、展示会、見学会、協賛事業など、県内各地でさまざまな催しが行われる。各イベントで、くもとアートポリス参加プロジェクトをはじめ、熊本の歴史、風土のなかで蓄積された優れた建造物や、住民参加による「私たちのまちづくり事業」の成果など、熊本の建築文化などを広く国の内外に紹介する予定だ。

対話を通して、

21世紀のまちづくりを...

くもとアートポリス2000第2回実行委員会開催!

シンポジウムが始まりそうな熱気



「もっと活動を知ってほしい」知事が冒頭であいさつ

7月5日、「くもとアートポリス2000」実行委員会の第2回理事会が開かれた。会の冒頭で実行委員会会長である瀬谷県知事があいさつ。「これまで数々の賞を受賞してきたアートポリス事業は、今年の10月、国立オランダ建築博物館で開催される展示会で紹介されることになり外国からも注目されています。しかし一方で、県内でもっと多くの人にこの事業について知ってほしいという願いもあります。今回のイベントのテーマ「地域と対話、地球とネットワーク」は、昨年度から県下6町で進めている『私たちのまちづくり事業』において特に大切にしている地域とのパートナーシップにも関連があって、非常にいいネーミングだと思います」と期待を述べた。

シンポジウムや展示会 盛りだくさんのイベント

11月に開催の「アートポリス2000」のイベントを中心に、12年度の事業内容等について審議された。

イベントは、シンポジウム、展示会、見学会、パネル・ビデオ展及び協賛事業で構成される。シンポジウムは作家の赤瀬川原平氏の講演や、「私たちのまちづくり事業」を展開中の6町の参加建築家を中心としたシンポジウム、また、国際的に活躍する建築家を招いたフォーラムなどを予定している。展示会としては、熊本市内の中心街にデザイン性の高い空間を立ち上げて21世紀の生活空間を提案したり、アートポリス事業による建造物などをまわる見学会では、県外や外国の人に見てもらおうコースや、同時期に天草で行われる県民文化祭に参加するコースも設定する。また、写真パネルやビデオを使い、天草空港などで事業の紹介もする。

このほかに、国立オランダ建築博物館からの依頼を受け、日蘭友好400周年事業の一環として10月20日から来年1月14日までロッテルダムで行われる「現代日本建築・都市計画・ランドスケープ展」への出展を予定。また、県民文化祭で行われる「くもとアートポリス」についてのシンポジウムやパネル展のほか、「私たちのまちづくり事業」の発表会も10月下旬から11月上旬にかけて予定されている。

活発な意見交換で事業のあり方を再確認

審議の途中、会場から「アートポリス事業は芸術家のもの?もっと県民に親しみやすい提案がほしい」「私たちのまちづくり事業に参加する自治体は、全部「町」で、「市」がないのはどうしてか」などの声があり、それに対して高橋一コミッショナーから「県民と行政と設計者が一体となる建築の作り方がアートポリスの目標。これまでの10年間は確かにターゲットが都市部に偏りがちだったが、第2期のアートポリスは、中央からは出て周辺の地域の人々と濃密な対話を繰り返しながら進めていこうとしている」という話があった。また、「芸術性と機能性は両立するものか」という問いに対して、このほど完成した農業大学の学生寮では学生たちが新しい食堂を大切に、かつ機能的に使っている例を引いて、両立は可能であることが説明された。伊東豊雄バイスコミッショナーも会場からの質問に答え、「現代の建築がその地域だけの独自性をもつことは難しいが、建築物がその地域に溶け込むためには、建築家と住民のコミュニケーションが必要不可欠だ」と持論を述べた。「あたかもシンポジウムができそう」と進行役が評するほど活発な意見が出された。

アートポリス2000の全貌

Symposium シンポジウム

くまもとアートポリス事業の理念、ひいては建築文化などについて県民の皆様へ理解していただくために、県民の方々を対象とした講演会や私たちのまちづくりシンポジウムを開催。これまでの事業の成果を皆さんに伝える。また、主に建築専門家を対象としたフォーラムでは、新たなアートポリス事業の展開を探るシンポジウムなどが行われ、くまもとアートポリス事業の新しい手法の紹介や新しい時代への対応などについて話し合われる。

県民に建築への
深い理解を

Symposium.1

講演会

あの、「老人力」の赤瀬川原平氏が来熊

- 日時/11月11日(土) 13:30~16:30
- 場所/熊本県立劇場「演劇ホール」

1. くまもとアートポリス事業紹介
高橋 誠一(コミッショナー)
2. 第6回くまもとアートポリス推進賞表彰式
3. 講演 「ぼくの建築体験」
講演者 赤瀬川原平(画家、作家)



赤瀬川 原平
AKASEGAWA GENPEI

●1937年神奈川県生まれ、武蔵野美術学校中退。画家、作家。日本の前衛美術の先駆的活動を行い、画家イラストレーターとして活躍する一方、尾辻克彦のペンネームで作家活動も。99年「老人力」で第53回毎日出版文化賞、特別賞受賞。

Symposium.3

国際建築フォーラム

グローバルな視点で21世紀の建築を見る

- 日時/11月13日(月) 13:30~16:30
- 場所/熊本テルサ「テルサホール」

1. 講演 「21世紀を開く構造システム」
講演者 セシル・バルモンド(オーヴ・アラップ&パートナーズ)
2. 鼎談
セシル・バルモンド
佐々木睦朗(名古屋大学教授)
伊東豊雄(バイスコミッショナー)



セシル・バルモンド

●1943年生まれ。レム・コールハースなど多くの建築家と協同作業し、世界を舞台に活躍するイギリスの構造エンジニア。横浜フェリーターミナルビルなど数多くのコンペで優勝。一方、ヨーロッパを中心に建築関係の教鞭を執っている。

Symposium.2

私たちのまちづくりシンポジウム

自分たちが住みたいまちづくりに取り組む
6町の成果を発表

- 日時/11月12日(日) 13:30~16:30
- 場所/熊本テルサ「テルサホール」

テーマ 「私たちのまちづくり」
発表者 私たちのまちづくり実施町(6団体)の担当建築家
モデレーター 曾我部 昌史
◆湯前町:宇野 求 ◆小国町:末廣 香織 ◆砥用町:八東 はじめ
◆南小国町:片山 和俊 ◆苓北町:小野田 泰明+阿部 仁史
◆蘇陽町:岡河 貢



宇野 求
UNO MOTOMU

●千葉大学助教授
主な作品◆豊橋駅口駅前広場・幕張ベイタウン・四谷テンボラリーオフィス、MURAMATSU HOUSE ほか



小野田 泰明
ONODA YASUAKI

●東北大学建築学科助教授
主な建築計画◆仙台メディアテークのコーディネート、仙台児童教育児童の建築計画、仙台市法政大学学生ホームの建築計画 ほか



末廣 香織
SUEHIRO KAORI

●NKSアーキテクト代表
主な作品◆佐伯の住宅、南風台の住宅、小林クリニック、三瀬の山荘、YKK黒部郡切家 ほか



阿部 仁史
ABE HITOSHI

●東北工業大学建築学科助教授
主な作品◆宮城県総合運動公園スタジアム、読売メディア・ミヤギ・グレストハウス、松島公園管理事務所 熊鷹、白旗町集会所 ほか



八東 はじめ
YATSUKA HAJIME

●ユービーエム代表
主な作品◆アンジェロ・タルラッチ・ハウス西麻布、狛江の家、文教大学センターハウス(8号館)+8号館 ほか



岡河 貢
OKAGAWA MITSUGU

●広島大学工学部助教授
主な作品◆尾道の家、ドミノ1994、ドミノ1995武蔵野泉邸、向島洋ランセンター展示棟、ドミノ1996かわくちかいじ仕事場住居 ほか



片山 和俊
KATAYAMA KAZUTOSHI

●東京芸術大学教授
主な作品◆藤原の家、金山町住宅羽塚邸、彩の国ふれあいの森・森林科学館・雷泊棟、コーハウス喜多見 ほか

Field trip 見学会

くまもとアートポリス事業の建造物に県民をはじめ多くの人々が接することで、アートポリスの理念や成果に対する理解を深めていただく機会にしようと思いを実施。常々、国内外からの視察が行われているが、見学会でも県外や海外の人々を対象とすることでアートポリスへの評価を高めることを目指している。各コースで一カ所は、設計者自らがコンセプト等の説明を行うという意義深い見学会となっている。

Field trip.1 県民の方を対象としたコース

- A 景観や歴史と共存する建物たち**
●10月15日 定員80名 ◆説明者 大野美代子
馬見原橋→清和文楽館・物産館→通潤橋→※鮎の瀬大橋
- B 東北の歴史にも触れられる**
●10月22日 定員80名 ◆説明者 石田敏明
県立農業大学校学生寮→鞠智城→八千代座→県立装飾古墳館→※有明フェリー長洲港ターミナル
- C 芦北・七浦に行く**
●10月29日 定員80名 ◆説明者 北川原温
つなぎ物産ギャラリー→県立あしきた青少年の家→御立岬→八代市立博物館→松浜軒→※不知火文化プラザ

※は設計者の説明を行う施設。

Field trip.3 国際建築フォーラム参加コース

- F 県南から県央へ、アートポリスを走る 県外対象**
●11月12日・13日 定員120名 ◆説明者 藤森照信
<1日目>清和文楽館・物産館→馬見原橋→鮎の瀬大橋→不知火文化プラザ→熊本市市
<2日目>県立農業大学校学生寮→21世紀へのアートポリスストリート展見学→国際建築フォーラム
- G 豊かな自然と都市、熊本のさまざまな顔 海外対象**
●11月12日・13日・14日 定員80名 ◆説明者 石井和紘、上田憲二郎
<1日目>県立装飾古墳館→小国町内施設→阿蘇山上施設→グリーンピア南阿蘇
<2日目>アスペクター馬見原橋→※清和文楽館・物産館→国際建築フォーラム→21世紀へのアートポリスストリート展→熊本市市
<3日目>※熊本市営新地団地

設計者の説明だけでもお聞きになれます!

アートポリス参加設計者の説明をお聞きになりたい方は、当日直接、現地においでください。(説明時刻は予定です)
参加を希望される方は、できるだけ公共交通機関をご利用ください。
なお、熊本市営新地団地には駐車場がありません。
天災等やむを得ない事情により時間の変更、もしくは中止する場合がありますので予めご了承ください。

県民から海外在住者まで、
アートポリスの建築を
触れてもらいたい



くまもとアートポリス'96 見学会より

Field trip.2 県民文化祭参加コース

- D 天草の光とアートポリスと... 県民対象**
●11月4日・5日 定員80名
◆説明者 岡部憲明
<1日目>宇土マリーナハウス→天草工業高校実習棟・体育館→丸尾焼工房→天草空港→天草陶芸展(県民文化祭)→下田温泉泊
<2日目>※牛深ハイヤ大橋・うしぶが海彩館→県民文化祭アートポリスシンポジウム
- E 広域でめぐる、欲ばりコース 県外対象**
●11月5日・6日 定員30名
◆説明者 岡部憲明
<1日目>※牛深ハイヤ大橋・うしぶが海彩館→県民文化祭アートポリスシンポジウム→砥園橋→本渡市市
<2日目>天草工業高校実習棟・体育館→不知火文化プラザ→石匠館→県立農業大学校学生寮

10月15日(日) 15時	鮎の瀬大橋	大野美代子
10月22日(日) 16時10分	有明フェリー長洲港ターミナル	石田敏明
10月29日(日) 16時	不知火文化プラザ	北川原温
11月5日(日) 11時	牛深ハイヤ大橋	岡部憲明
11月13日(月) 9時50分	県立農業大学校学生寮	藤森照信
11月13日(月) 10時	清和文楽館	石井和紘
11月14日(火) 8時40分	熊本市営新地団地	上田憲二郎

Exhibition

展示会

Exhibition, 1

21世紀へのアートポリスストリート展

アートポリスストリートが出現

最新の映像技術でアートポリスの施設を紹介したり、大人から子どもまで楽しめる催しを展開し、くまもとアートポリスプロジェクトや私たちのまちづくり事業の内容など熊本県の建築文化などを広く国内外に紹介します。

- 場所 熊本市下通りアーケード街等
- 期間 11月11日(土)~11月13日(月)
- 内容 コンピュータ映像の放映・ブース展示・スタンブラリー・パフォーマンス・子ども向けコンクールなど



(イメージ図)

Exhibition, 2

くまもとアートポリス展

くまもとアートポリスの建造物や私たちのまちづくり事業のパネル、模型を展示

- 場所/県立美術館分館ギャラリー
- 期間 10月31日(火)~11月12日(日)



県立美術館分館 (アートポリス参加プロジェクト)

Others.1

パネル・ビデオ展

12年間の成果の総まとめ

くまもとアートポリス事業を紹介するパネル・ビデオ展を開催。12年間に渡る事業の成果を広く紹介します。

- 場所/天草空港
- 期間/10月28日(土)~11月5日(日)
- 内容/くまもとアートポリス事業に関するパネル展示、ビデオ放映等

Others.2

協賛事業

海外建築展への出展

くまもとアートポリスを海外でアピール

国立オランダ建築博物館が、日蘭友好400周年記念事業の一環として開催する「Towards Totalscape」(現代日本建築・都市計画・ランドスケープ展)に出展。

- 場所/国立オランダ建築博物館(オランダ・ロッテルダム)
- 期間/平成12年10月20日(金)~平成13年1月14日(日)
- 内容/くまもとアートポリスの概要、熊本の歴史、自然、参加プロジェクトのパネルや熊本県地形模型の展示、ビデオ放映等
- 主催/国立オランダ建築博物館



私たちのまちづくり展

参加6町でそれぞれ実施される「私たちのまちづくり」の成果が模型やパネルなどを用いて発表されます。

- 場所/湯前町、小国町、砥用町、南小国町、苓北町、蘇陽町
- 時期/10月下旬~11月上旬(予定)
- 主催/参加6町

県民文化祭への協賛

天草で開催される県民文化祭でくまもとアートポリスをテーマとしたシンポジウムやパネル展に協賛します。

- [アートポリス展]
- 場所/うしぶか海形館(牛深市)
- 期間/11月1日(水)~11月5日(日)
- [アートポリスシンポジウム]
- 場所/牛深市総合センター(牛深市)
- 日時/11月5日(日)13:30~
- 主催/第13回県民文化祭ミレニアム天草実行委員会

小さなモノから大きなコトまで KD21し・ご・と展

- 場所/上通郵便局「プラザU」(熊本市) ●期間/11月9日(水)~11月13日(月)
- 主催/KD21

21世紀への遺産「熊本の近代建築」

- 場所/同仁堂スタジオライブ(熊本市) ●日時/11月10日(金)18:00~
- 主催/(社)熊本県建築士会

アートポリス観て、聞いて、触って、感じる... ウォッチング&トーク

- 場所/熊本市中心部 ●日時/11月12日(日)13:00~
- 主催/KD21

住宅のうつりかわりと住宅作品展

- 場所/県立美術館分館ギャラリー ●期間/11月14日(火)~11月19日(日)
- 主催/(社)熊本県建築士事務所協会

熊本における現代建築展

- 場所/県立美術館分館ギャラリー ●期間/11月21日(火)~11月26日(日)
- 主催/(社)熊本県建築士事務所協会

JIA熊本建築家の会作品展

- 場所/県立美術館分館ギャラリー ●期間/11月28日(火)~12月3日(日)
- 主催/(社)日本建築家協会九州支部熊本建築家の会

専門部会メンバー、「アートポリス2000」を語る

シンポジウム部会

山田 穰氏

●九州東海大学工学部

「アートポリス2000」の新しい特徴は「私たちのまちづくり事業」である。住民による企画、運営での積極的な関わりがその未来を決める。建築は、まちづくりという時間的スケールから見ればスタート地点に立ったということ。この試みを、継続していく意味でも、多くの方々に参加していただき、その成果や課題を共有していただきたい。

入江 雅昭氏

●(社)熊本県建築士会

建築士の九州ブロック大会で「アートポリス」を題材に討論がなされ、県内外の意識の違いが明確に見え、また「アートポリス」の重さも改めて感じました。その場で提起されたさまざまな反響点を踏まえ、今回のイベントに生かしていければと思います。

植田 宏氏

●熊本大学工学部

現代の若者が使う「アート」の語感に近い、親しみのある建築、馴染みのある建築の話が飛び交い、「アートポリス」の意義、希望、及び、その逆の部分をつらぬいて話そう。シンポジウムがそのような場になることを期待しています。

小嶋 隆氏

●(社)熊本青年会議所

20世紀から21世紀へ、時代をつなぐアートポリス建築に、明るい豊かな未来を期待しています。次代を担う子どもたちの夢を育む建築物であってほしいと思います。我々青年会議所も「アートポリス2000」を応援していきたいと思っています。



西郷 正浩氏

●崇城大学工学部

学生時代にアートポリスが始まり、建築作品・建築家と出会い、興奮・勉強した。前回同様、興奮し得るように活動したい。市民が注目し、専門家がうなる、スタジアム的シンポジウムに仕立てるにはどうしたらいいか、考えたい。

坂口 秀樹氏

●(社)熊本県建設業協会

アートポリスは、県内はもとより県外にも随分浸透してきているように感じます。アートポリス見学会も、告知をすればすぐ定員いっぱいになる盛況ぶりです。そんな中、今世紀最後の年に行われる「アートポリス2000」。シンポジウムも、一般の方も専門の方にも満足していただける内容になっています。気象におまかせください。

柴田 真秀氏

●(社)日本建築家協会

前回のアートポリス'96では、何か新しい世界が見えるのではないかとワクワクして出席していました。今回は、コミッションも変わり、建築を通して、熊本の地に根ざした新しい文化が芽生えることを期待します。

島村 徹氏

●アートポリスを考える会

'92年、'96年に続く3回目のイベントになりますが、今までと違うアートポリスの新たな特色がみられると思います。また、多くの方々がこれを機会に建築を身近に感じていただけるような内容にしたいです。

松下純一郎氏

●熊本日日新聞社

建築物はただのハコではない。その中には仕事をする人がいる。暮らす人がいる。笑う人がいる。悲しむ人もいます。意匠を楽しむ鑑賞者もいる。つまり、ハコに魂を吹き込むのは、ハコに触れ合う人間なのである。建築家にはそこを深く心得てほしいと願う。互いの交わりの中こそ、アートポリス成功の鍵もありそうだから。

米村 祐一氏

●(社)熊本青年会議所

アートポリス事業が始まって12年。諸外国では注目されていながら、県内での認知度がまだまだ低いと感じます。今回のシンポジウムを絶好のアピールの機会にできればと思います。民間の参加を促して、認知をはかるとともに、市民県民の日常生活に溶け込んだ形でアートポリスが展開されることを期待します。

もっと楽しく、充実した「アートポリス2000」に！

今回行われる「くまもとアートポリス2000」の実行委員会では、シンポジウム部会と展示部会という専門部会を組織している。各部会は、県内の大学、建築・経済関係団体、マスコミ関係者により構成されており、それぞれの専門的見地から、より充実した「アートポリス2000」を実施するための企画・提案を行っている。

展示部会

福島 正継氏

●(社)熊本県建築士事務所協会

今までのアートポリス展示会は、専門家たちの評価はささる良いものである。今後は専門分野の人々だけでなく、県民がもっとアートポリスを知って、触れ合えるような展示会を行いたい。

柏木 正文氏

●熊本建設局建築課

今回のテーマのひとつである「地域対話」を基本に、その土地土地で蓄積された建造物を、多くの人が身近に感じ、足を運び、親しまれるよう、具体的にわかりやすく紹介したいと思います。展示などを行う地域の方々との話ができればと思っています。



佐藤 慎也氏

●日本大学理工学部

多くの人が集まる大通りのストリート展では、誰もが親しみをもつことのできる、楽しい展示を目指します。自分の町・村にある建物がアートポリスによるものだと知らない方も少なくないかと。今回の展示をきっかけに、建物のすばらしさを理解するとともに、身近なものにしてもらえたらと思います。

小路 和彦氏

●(社)熊本県設備設計事務所協会

これまでは設計の立場でアートポリス事業に参加しており、全体を見ることはありませんでした。今回は、展示部会の委員をおおせつかり、より深く、身近にアートポリスの作品に触れ合うことができ、理解できることをうれしく思っています。

長江 浩史氏

●熊本市下通繁栄会

地元の下通アーケード街が中心ですので、建築の専門家でない方も楽しめるような企画で多くの方に参加をいただき、アートポリスを下通という地域に溶け込んだイベントにしたいですね。

星野 裕司氏

●熊本大学工学部

展示のメイン会場が下通りであることは、大変有意義で、大きな可能性があると感じています。この展示会を一過性のイベントに終わらせず、今後の都市計画を再考するきっかけとして、さらに、アートポリスを熊本県民に根ざした文化として、再度、世界に発信される契機になるよう、努力したいと思います。

本間 里見氏

●熊本大学工学部

5年前来熊で、最初にやったことはアートポリスの建築を見て回ることでした。その建築の質の高さや、地域に根ざした環境創造の理念にはとても感心しました。今回、アートポリスのお祭を少しでも盛り上げたいと思います。部会に参加させていただき、みんなに楽しんでもらえる展示を楽しみたいと思っています。

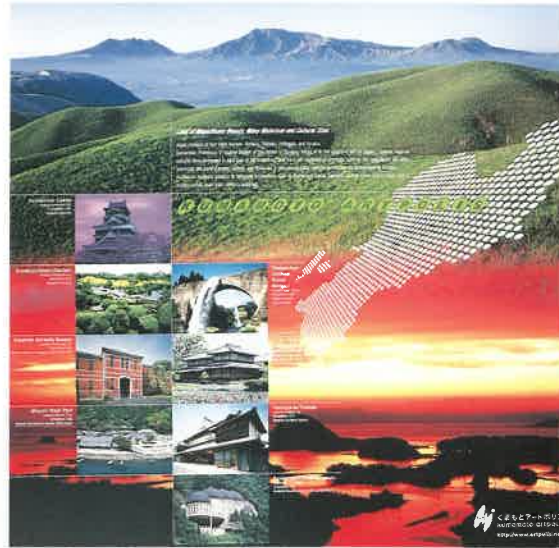
松永 壮氏

●松永壮デザイン事務所

「アートポリス2000」のイベントを通して、大人や子どもがもっと身近にアートポリスというものに興味をもってほしい。建物の良い所、悪い所、なんでもいから、見て、感じてほしい。それが今後のアートポリスの存在価値になると思うから。

「アートポリス=熊本の豊かな風景からの発信」を評価、出展依頼

「Towards Totalscape」 (現代日本建築・都市計画・ランドスケープ展) オランダで開催



日本とオランダの交流400周年にあたる今年、両国でさまざまなイベントが企画されている。オランダのクライマックスは10月20日にオープンする「現代日本建築・都市計画・ランドスケープ展『Towards Totalscape』」。(会場/国立オランダ建築博物館)。豊かなランドスケープを舞台にしている点が高い評価を受け、くまもとアートポリスへも出展要請があった。展覧会では、日本全国で実現された約90の建築・都市計画プロジェクトを、大都市から地方都市、農村、自然、人工といった5つのランドスケープを背景に紹介。周辺の環境、地域社会から独立してはありえない、建築の意義を問いかけるものだ。現代日本の文化と風景を通して、これまでの友好の歴史をさらに進化させ、21世紀の日本とオランダの相互理解を深めることができれば、と期待が高まっている。

「Towards Totalscape」 (現代日本建築・都市計画・ランドスケープ展) キュレーターに聞く アートポリス

建築は風景をかたちづくる大切な要素
長いスパンで地域のよりよい風景づくりを



国立オランダ建築博物館

展開されているアートポリスは、そんな建築展の趣旨にぴったりだと考えて、今回出展をお願いしました。

実はオランダには、国としてアートポリスのようにトータルで建築をコーディネートするシステムがあります。でも、日本の場合は風景も地域のありようも大変多様ですから、国全体として統一して、というより、アートポリスの場合のように一つの地方自治体のレベルで行うのが向いていると思います。

建築は、建てるまでは持ち主(施主)のもので、しかしあまり意識されませんが、いったん建ててしまおうと周辺環境の中の一つの要素になります。建築は、どういう風景をつくっているかということに、深くかかわっているのです。くまもとアートポリスという事業に意味があるのは、ある程度長期間、クオリティの高い建築物を、公共の立場で提供することで地域振興や文化振興に寄与し、地域の風景の質を高めている点です。「空間の質の高さ」は、多くの人が住んでみたい環境づくりにつながる。今、この地域を「住みたい場所」にすることは未来への投資です。なぜなら、これから「I」が進んで在宅ワークが一般化すると、今まで以上に「住みたい場所」に「住める」可能性が高まるわけですから。

一時的な経済的利害に左右されるのではなく、長期にわたって「続ける」ことに、アートポリスの大きな意味があると思います。



オランダ建築博物館学芸員 建築家
吉良 森子 氏

早稲田大学で建築を専攻後、1989年、オランダ留学。1990年工学修士取得。1995年ローマ賞基本賞受賞後、建築事務所をアムステルダムに設立。1998年よりオランダ住宅・国土開発・環境省建築局に建築士として勤務。日蘭の建築雑誌執筆多数。

今回の建築展は、従来日本を紹介するときありがちだった、東京=大都市/京都=伝統建築という両極だけを扱うのではなく、農村風景も含めた日本全域から優れた建築物を集めています。熊本という地域で

INTERNATIONAL ARTPOLIS

NEWS

次々と来熊する海外視察団

オランダを代表する ジャーナリストが来熊

10月に開催される「Towards Totalscape」(P8参照)を前に、日本の建築・都市計画を取り巻く状況をより深く理解したいと、オランダ建築博物館の関係者とジャーナリストの一行11名が、5月27日~6月6日来日。日本各地の建築・都市計画の視察を行った。一行は5月31日、熊本県知事を表敬訪問。アートポリスの効果などについて質問が出た。それに対して知事は「この事業を通して熊本の文化を発信し、施設と地域との結びつきも深まっている」と述べた。その後、6月1日まで清和文楽館、八代市立博物館など11のアートポリス参加プロジェクト等の見学が行われた。



韓国建築界から、 続々とアートポリス見学へ

今年5月、韓国大邱広域市都市開発公社の一行が県営竜蛇平団地、新地団地といったアートポリスの集合住宅を中心に視察。同月、日韓文化交流の一環としてソウルの淑明女子大学の環境デザイン課からも装飾古墳館などを見学のため来熊。また、6月には同じくソウルの国民大学校建築課学生も新地団地などを見学に訪れ、熊本と韓国の文化交流を深めた。



ドイツ建築界の 若い世代も アートポリスを見学

ドイツ建築関係の学生21名も、今年4月アートポリスプロジェクトを視察。再春館レディースレジデンス、玉名天望館、熊本市営託麻団地、八代市立博物館、球磨工業高校伝統建築コース加工組立室棟など、県内の幅広いエリアで見学を行った。



ワークショップが生み出す 新しい住民意識、 建築家の領域

県内6町で実施中の「私たちのまちづくり事業」は、11月に開催される「くまもとアートポリス2000」の中でもシンポジウムが予定されている。これに先立ち、6月10日に蘇陽町で中間報告会が開催され、続いて公開討論会となった。



蘇陽町総合行政センター

ユニークな企画も考案

それぞれのまちを担当する建築家が事業の進捗状況やこれまでのワークショップについて発表した中間報告会のおと、公開討論会となった。私たちのまちづくりに携わった多くの人々や一般の参加者も交えて、これから展開されるワークショップのあり方などについて自由に意見交換が行われた。

参加6町では、それぞれにユニークなワークショップを企画中だ。子どもから大人まで地域の人が自分たちの住む町を散策して回ったり、町外の学生から見て町に欲しいものをわがまま放題出してもらおう、といった計画もある。建築家は住民が参加しやすいワークショップを設定することで、「もの」のデザインだけでなく、そこに至るまでのプロセスや人間関係といった「こと」のデザインにも携わっている。

ワークショップの役割について

何回もワークショップをやっている住民の中には、成果が生かされないという不満もある。「ワークショップは『住民に意見を聞いた』というアリバイ工作ではない」と述べる人もいた。これに対して、行政の参加者から「計画に基づいて実施ができるのは、ワークショップのおかげ。重心はあくまでも町民」と意欲的な反応があった。

また、「意見を聞けばいいというものではなく、建築家は自らのビジョンも持つべき。しかし、建築は建築家の所有ではなく、建築が彫刻ではない以上、その使われ方に無関心であってはならない」とい

う専門家としてバランスのとれた役割を重視する発言もあった。

ずっとつきあうことがワークショップ

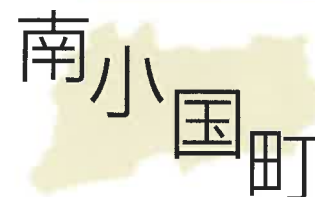
「施工業者に頼まず自分たちの手で造れるものはないか?」と考えている蘇陽町やワークショップを機に「体育館改築を考える会」をつくった小国町など、住民にも「自分たちの手で」という意識は浸透している。一方建築家が10年以上、町と関わりを持ちつづけている例もある。現在は行政側でも住民側でもない中立的な立場から意見を言い、ときに両者の「通訳」の役をしたりもする。関わり続ける中で「建物の運営をする担当者が代わる時、本来の使われ方が伝わっておらず『この建物は使いにくい』と言われたりするので、記録を残すことも大切」という。住民からは「町が内緒事で進めるのではなく、町民が入っていけるワークショップはいいなと思った」という感想とともに、「地元の木を使い、一方で育てながら、まちづくりと一緒に環境づくりもできるような、まちに合った建築を」という希望も出され、長期的にまちづくりを考える姿勢も必要であることが再確認された。

「公共建築は個人住宅と違い主体がはっきりしづらく、誰のためにつくったものかと問われることも多い。しかし、ワークショップに参加する人は度々『私たち』という言葉で口にし、個人ではなく町全体の視点で何を必要とするか、何を求めているかを考えている様子うかがえる」と述べた建築家もいた。ワークショップを通して、住民にも「まちづくりは自分たちですのもの」という自然な意識が生まれているようだ。

新規プロジェクト紹介

住み手との意見交換を通して風土に根ざした団地づくりを

南小国町宮杉田団地・矢津田団地



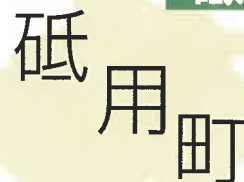
- 事業主/南小国町
- 設計者/片山和俊氏+DIK設計室+川崎設計
- 所在地/阿蘇郡南小国町赤馬場
- 主要用途/共同住宅
- 床面積/3126.04m²
- 戸数/56戸
- 構造/木造+鉄筋コンクリート造

築後40余年になる南小国町物産館西側にある杉田団地の立て替えと矢津田神社南側の矢津田団地の建設計画。木造と鉄筋コンクリート造りの建物を織り交ぜ、56戸の建設を予定している。ここでも、まちづくりの一環として、住民と設計者がワークショップを重ねた上で計画を策定中。設計者の片山和俊氏+DIK設計室+川崎設計による基本設計案が地元住民に説明され、実施設計に向けて見直しが行われている。片山氏は「基本設計では、団地の裏山の背景に調和することや志賀瀬川を挟んで並ぶ両団地の敷地の特性を考慮。また、寒冷地であることから、住宅のタイプは日当たりに配慮。さらに、農家的な住まい方を取り入れ、田の字型プランをベースに、建具を開けると広く使えるようにした内部と屋外のテラスを連動させる工夫をしている」と説明している。



暮らしと文化の拠点づくりは、町民主導で進行中

砥用町町民センター



- 事業主/砥用町
- 設計者/八束はじめ
- 所在地/下益城郡砥用町土喰
- 主要用途/ホール
- 建築面積/1999m²
- 延面積/2502m²
- 構造/鉄筋コンクリート造+鉄骨造+木造

まちづくりの一環として進められている砥用町町民センターの建設は、多くの人が集まり、暮らしと文化の拠点として利用しやすい施設づくりを目指している。設計者の八束はじめ氏はワークショップを通して、地元町民各界の代表と意見を交換し、ホールや研修室、図書室など、町民の要望に応じている。現在は、川沿いにある敷地へのアプローチ道路との連携を図るなど、外部環境との整合性を考慮中。八束氏は「敷地東側にある段差を生かし、建物の入口を上下2層とすることによって、高さを抑えて周辺の景観を守り、さらに、高齢化が進む町民の利用に配慮しながら基本設計を行った。また、皆さんの要望もあり、砥用の木をホールの屋根を支える骨組みに使ったり、通常使われる金属に代えて窓枠には薄いフィン(羽)状の日除け兼用の集材材を使うなど、新しい試みも考えている」と語っている。



Artpolis Drive Route

●アートポリスドライブルート

点から線へ、地域に溶け込み 地域をつなぐアートポリス

その美しい姿で新しい地域の名所になりつつある鮎の瀬大橋、伝統文化の継承拠点・清和文楽館、地域の交流スポットにもなっている馬見原橋…アートポリス建造物は地域に溶け込んで新しい生活文化をつくり、地域の活性化に貢献している。今回、地域でボランティア活動をする2人の女性に、そんなアートポリスの「現在」を体感してもらった。



アートポリスと地域の方々とつながりに感動!

熊本婦人ボランティアの会副会長
中尾 桂子さん

ホテル業のかたわら、ボランティア活動を30年ほど続けている。建築物への関心も高く、個人的には、新しいものより昔から大事に使われてきた古い建物にひかれるとか。

仕事柄、お客様を熊本の観光地へご案内することも多いので、県内の観光地には詳しいのですが、アートポリスを巡るこのドライブでは、「あの建物もアートポリスによる建築物だったのか…」と、新しく発見した建築物もありました。驚いたのは、九州の中心に位置する阿蘇郡蘇陽町の馬見原橋。車ではよく通っていたのですが、じっくりと見学したのは今回が初めて。まさか橋の下に揺りかごのような歩行者用の橋があるなんて、まったく気が付きませんでした。道の片隅にひっそり咲いている野の花を見るような温かな気持ちになりました。街づくり協議会の会長によると、「この橋を中心に町の活性化を図りたい」と橋周辺でイベントも行うそうです。



地域文化の継承に影響を与えたアートポリス

熊本ベンチャークラブ会長
井上 理香子さん

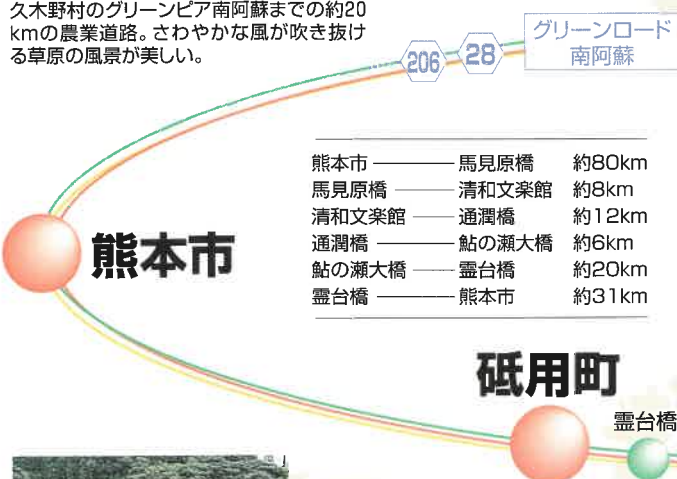
熊本音楽短期大学卒業後、ピアノ教師をしながら、ピアノリサイタルなど音楽活動を行う。音楽以外の世界を経験したいと以前より興味があったボランティア団体ベンチャークラブに入会、現在会長職を務める。

今回のドライブコースは、熊本に住んでいながら、初めて訪れるスポットばかり。県内にこんな素晴らしい建築物があるのかと、とっても勉強になりました。私はピアノの演奏家として活動していました。分野は違いますが、表現するという立場で考えると、つくり手の自己満足ではなく、何を作ったら皆さんが喜んでくれるかということが一番のポイントになると思います。そのような視点でいえば、清和村の「清和文楽館」は、作り手と地域住民の思いが調和した建物ではないでしょうか。清和村では、文楽館が完成したことにより、伝統芸能がより確実に継承されているのではないのでしょうか。また、それを見るために地元や県外から、多くの方が訪れるのは、とてもうれしいことです。熊本に、このような素晴らしい文化が残っているということ、建築物がそれに影響を与えているということにとっても感動しました。



1 グリーンロード南阿蘇

平成10年に開通した「グリーンロード南阿蘇」は、西原村の国道225号の大野交差点から久木野村のグリーンピア南阿蘇までの約20kmの農業道路。さわやかな風が吹き抜ける草原の風景が美しい。



6 霊台橋

霊台橋は、砥用町を流れる緑川本流の難所、船津峡に架けられた単アーチ型の石橋。高さ16m、幅5.5m、長さ89.8m。その美しいアーチ型は見事なもので、国の重要文化財に指定されている。



2 馬見原橋

阿蘇郡蘇陽町の五ヶ瀬川に架かる馬見原橋。車道の真下に蘇陽産のスギを使用した吊り橋風の歩道がある。横から見ると船型に見えるその橋は、雨の日に雨宿りをしたり、夏には夕涼みをする地元の人々の姿もあり、地元の方々に親しまれている。

馬見原街づくり協議会の会長を務める本田彰さんらは、活性化のためのイベントも企画している。



5 鮎の瀬交流施設「交流館」

鮎の瀬大橋のたもとにある特産品販売所「交流館」。「外で働くようになってから、きれいになって主人が言うんですよ(笑)」と、この施設を運営する農家の主婦のグループ、山里の会の皆さん。総勢12名が交代で販売所を切り盛りしている。



3 清和物産館

清和文楽館と併設された清和物産館は第1回くまもとアートポリス推進賞受賞施設。中の食事処で昼食。地元農家の主婦の方々が工夫を凝らし、おいしい作り方を教えたりして、旬の山菜を素材に今まで清和村に伝承された味。



3 清和文楽館

地元の木材をふんだんに使った温かみのあるその建物は、清和村の伝統を後世に残すことを目的に造られた。東京からの修学旅行者など年間約15万人の観光客が訪れる。



清和文楽資料館で文楽の歴史などを渡辺久主任に説明してもらった。

4 通潤橋

豪快な放水で知られる通潤橋。矢部町では、毎年9月上旬に矢部町の祭り、八朔祭が行われる。タケヤスギ、ススキなど自然の材料を使い、ライオンなど動物をモチーフにした大造り物が制作される。



熊本市

Grid of 35 numbered project cards for Kumamoto City, including 1 熊本北園駅前, 2 県営保田連第一団地, 6 熊本市花畑パークトイレ, 7 熊本市上江津湖畔トイレ, 8 熊本市宮新地団地A, 9 熊本市宮新地団地B, 10 熊本市宮新地団地C, 11 熊本市宮新地団地D, 12 熊本市宮新地団地E, 14 熊本市宮新地団地F, 17 県営帯山A団地(公園コンペ), 27 県営新渡鹿団地, 32 再春館レディスレジデンス, 33 県立美術館分館, 35 県営竜池公園, 40 白川橋梁整備, 48 熊本北新築駅前交番, 57 水前寺江津湖公園管理棟.

荒尾・玉名

Grid of 3 numbered project cards for Arago and Tamana: 29 玉名天望館, 50 有明フェリー長瀬港ターミナル, 51 荒尾警察署長洲交番.

鹿本・菊池

Grid of 3 numbered project cards for Kakumoto and Kikuchi: 21 県立芸術古墳館, 59 県立農業大学校学生寮, 58 鹿本町アートプロジェクト(公園コンペ).

阿蘇・上益城

Grid of 17 numbered project cards for Aso and Kami-Asahi: 20 清和文楽館, 23 船の瀬大橋, 31 草地畜産研究所畜舎, 38 花の温泉館, 39 TOTO AQUAPIT ASO, 41 杖立橋+Pホール, 46 馬見原橋, 53 草千里公共トイレ, 55 阿蘇・散馬園(公園コンペ), 62 一の宮養蚕園内牧交番, 64 南小国町豊杉田団地(公園コンペ), 66 清和文楽館の駅(公園コンペ).

八代・芦北

Grid of 7 numbered project cards for Yatsushiro and Ashikita: 5 八代市立博物館・未来のミュージアム, 19 道の香橋, 36 つなぎ物産ギャラリー, 49 ふれあいセンターいずみ, 52 県立あしたの青少年の家, 61 氷川ダム管理所(工事中), 63 八代市立高田あけぼの保育園(工事中).

宇城

Grid of 4 numbered project cards for Utsunomiya: 4 三角港フェリーターミナル, 26 石打ダム管理所, 42 石打ダム資料館, 45 不知火文化プラザ.

人吉・球磨

Grid of 3 numbered project cards for Hitagi and Kuma: 3 加久藤トンネル換気所, 22 球磨工業高校校舎建設コース加工組立室棟, 34 湯前まんが美術館・公民館.

天草

Grid of 10 numbered project cards for Tenkai: 16 牛深ハイヤ大橋, 25 松島町合津尾処理場管理棟, 37 教会の見えるチャペルの設置公園, 43 天草ビジターセンター・天草展望休憩所, 44 うしぶが海鮮館, 47 天草工業高校美術棟・体育館, 60 富岡団地公共トイレ.

くまもとアートポリスプロジェクトガイド

その他

Grid of 7 numbered project cards under 'その他': 13 県道橋梁補修整備(橋梁調査), 15 光のまちづくり(まちづくり博覧), 18 玉名市文化施設構想, 24 公園ファニチャーデザイン・同整備マニュアル(構想), 28 大津町第二庁舎・町民交流施設(構想), 30 大甲橋梁補修整備(構想).